

日本映画放送株式会社 第 63 番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成 30 年 5 月 15 日（火）15 時～16 時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町 1-1-3 東京宝塚ビル 15 階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 8 名 / 出席委員数 8 名
出席委員(順不同、敬称略)：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・砂川 浩慶・
曾根 和子・鳥居 美砂・西 正・田保橋 淳
放送事業者側出席者：常務取締役 佐藤 信彦
執行役員編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部 部長 小川 英洋
編成制作部マネージャー 三宅 歩
編成制作部マネージャー 小林 良弘
番審担当 堤 靖芳
清水 明(記)

4. 議題 (1) 審議事項

日本映画専門チャンネル 『この世界の片隅に』と関連番組・特集について

(2) 報告事項

時代劇専門チャンネル 「銀幕の時代劇 黄金の 10 年」について

5. 議題 (1) 概要

2016 年に公開されたアニメ映画『この世界の片隅に』を、3 月 18 日に「日曜邦画劇場」でテレビ初放送した。本作はミニシアター作品ながら 360 スクリーン以上に拡大し、大ヒットロングランした。また、日本アカデミー賞最優秀アニメーション作品賞、アヌシー国際アニメーション映画祭審査員賞、キネマ旬報ベストテン第一位を獲得するなど、国内外で高く評価された。「日曜邦画劇場」では解説番組を制作、観客のメッセージや映画祭トロフィーなどを飾った特設セットに片渕監督を招き、制作秘話を披露いただいた。21 日の再放送では片渕監督作 2 本を併せて一挙放送。反響は非常に大きく、新規加入も伸びた。

【審議 POINT】

- 本作を見て実写映画だけでなく、アニメ映画についてもテレビ初放送をすることについてのご意見をお聴かせください。
- 作品をただ放送するだけではなく、片渕監督のインタビュー及び特集を合わせて放送することについて、視聴者にとって有意義で魅力的と言えますでしょうか。

6. 議題(1)審議内容

- ・作品に感動し、テレビ初放送にも納得した。アニメーションの方が実写以上に想像力が働くと感じた。実写映画に決して劣らない。特別番組は片渕監督へインタビューがあり、制作裏話が紹介されたが、視聴者にとってとても有意義な番組だったと思う。
- ・太平洋戦争から73年が経ち、戦争未体験者が大多数になった現在、戦争を考える際には想像力が試される。この作品は、戦争を考える良いジャンプ台となった。手描きアニメを伝える作品としても貴重。特番では片渕監督の言葉をもっと長く聞きたかった。
- ・解説番組は前後篇ともに評価できる。特に後篇は作品がじっくり肚に落ちて良かった。ただ、作品の特設サイトが4月で終わってしまったのは残念。
- ・私は終戦時中学生だった。特攻隊に行った先輩がいたり、大変厳しい状況を現実に目にしているの、劇中の日常風景が、薄っぺらく、甘く見えた。また、敵を描いていないのも物足りない。しかし、だからこの作品がいけない、という訳ではない。「伝聞戦争映画」としてこれは良い映画だ。戦争を取り上げる方法は千差万別だが、戦争は怖い、戦争をしてはいけない、と戦争体験者としては伝えてほしい。
- ・映画興行はアニメがメインになって、観る世代も幅広い。最早実写とアニメを区別している時代ではない。『この世界の片隅に』は確かに傑作で、このチャンネルでテレビ初放送できて素晴らしい。これからも映画をより楽しめるようにしてもらいたい。
- ・戦時中の呉を題材にした本などを読むと、呉の町はもっと殺伐としている。戦争ファンタジー映画だが、大人が楽しめる良作だとは思う。解説番組はクラウドファンディングについて触れていたが、なぜ一般から協力を得たのか、まずそこから説明すべきだろう。
- ・解説番組の片渕監督のインタビューは後篇が良かった。ただ、せっかく監督自ら作品解説してくれるのだから、最後まで見せきる工夫や対策をもっと考えてほしい。
- ・私は日曜邦画劇場がよく見るが、キャストや監督がゲストで登場するのが楽しみで、このチャンネルで映画を観る価値を感じる。今回は特設スタジオで関連グッズや観客のコメントなどを飾って映画の解説をしたが、壮観だったし、説得力があった。ただ、前篇で受賞歴などを予め見せられると、視聴者は事前に作品の価値を押し付けてられたような気になったかもしれない。片渕監督作品の一挙放送も良い企画だ。

各委員からの発言に対して、当社からの説明・回答は以下の通りであった。

- ・特別番組の前篇で作品の評価を紹介し、期待を高める構成にした。日本映画専門チャンネルは視聴者の年齢が高く、アニメというだけで見てもらえない傾向がある。本作放送の成功を糧に今後もアニメ映画の初放送などに取り組んでいきたい。
- ・今日の話をたいへん心強く受け止めた。これからもジャンルにかかわらず、作品の良さを丁寧に視聴者へお伝えしていきたい。3月18日の放送後にはSNSで情報が行き交い、「見逃した」というツイートに、「21日に再放送があるよ」とファン同士のコミュニケーションが生まれていた。弊社放送では珍しい現象だった。

7. 議題（2）報告事項

【時代劇専門チャンネル「銀幕の時代劇 黄金の10年」について】

4月からスタートした「銀幕の時代劇 黄金の10年」では、毎月1本、年間12作を放送し、片岡千恵蔵、美空ひばりといった時代劇スターが活躍する昭和三十年代の映画を紹介していく。平成も終わろうとする今、娯楽時代劇映画が若年層にも人気復活しつつあり、当チャンネルでもこうした作品を積極的に取り上げ、新たな視聴者を獲得していきたい。また、今まで視聴者から問い合わせのあった未放送作品も多数ラインナップされており、チャンネル初放送で既存視聴者のリクエストにも応えていく。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成30年7月17日(火)15時より開催。